

汝 読まざることなれ

独断と偏見による「汝、気にすることなれ」
観劇のポイント3選

ポイント①

作者「エルフリーデ・イェリネク」とは？

- ・オーストリアの小説家、劇作家(1946～)
- ・2004年ノーベル文学賞を受賞。

授賞理由

「その小説と劇作における**音楽的な声**と対声
によって、**社会の不条理**と**抑圧**を並外れた言葉への
情熱を持って描き出した。」

キーワード

音楽的な声　社会の不条理　抑圧



© Helga Zemann

ポイント② 戯曲『汝、気のことなれ』とは？

- ・イエリネクがシューベルトの歌曲を参考に書いた「死の小三部作」

第1部『女魔王』

：ブルクの大女優が死んだ。成大な葬式の終わり、彼女は棺桶の中から生者達に語りかける。

第2部『死と乙女』

：童話「白雪姫」の世界。小人を探す姫と銃を持つ狩人の会話は、静かに歪んだ声として舞台に響く。

第3部『さすらい人』

：妻のロネリ(ローニー)も、家も国家も失って、男は一人、話し始める。

今回は『女魔王』と『さすらい人』のみで作劇



2022/6/18

ポイント③ 演出について(見方がよくわからない方向け)

- ・登場人物は2人、でも役者は5人

戯曲の中では『女魔王』『さすらい人』共に、語るのは1人ずつ。

でも本作では戯曲の登場人物=役者の1：1の関係ではないことに注意！アルファにしてオメガ。

- ・力強い「テキスト」、抑圧された「身体」

作中、『女魔王』と『さすらい人』のテキストが、場面ごとに切り替わっていく。(必ずしも順番通りではない)。どちらの「言葉」も、すごいパワーを持っているけれど、それを語る役者はどこか「不自由」そうに見えるかも。「テキスト」と「身体」がどんな関係性になっていくのか、考えて見るのもおつです。

「彼らは何を語っているのだろう。」(『さすらい人』より)

最後に

いろいろ書いたけど、これを読んでくれたあなた(読み飛ばしたあなたも)が
見たもの、見えたものが全てです！！

人によって感じ方、心に引っかかるところが違うのが、抽象劇のいいところ。
少しだけ、頭が疲れちゃうかもですが、
ぜひいろんなことを考えて見てもらえたなら嬉しいです。

それでは当日会場で！！また、改めてご予約は関係者まで直接連絡お願いします！！

**ここまで読んでくださってありがとうございました！！
汝、幸せであらざることなけれ！！**

。

藤束遊一(藤一色)